

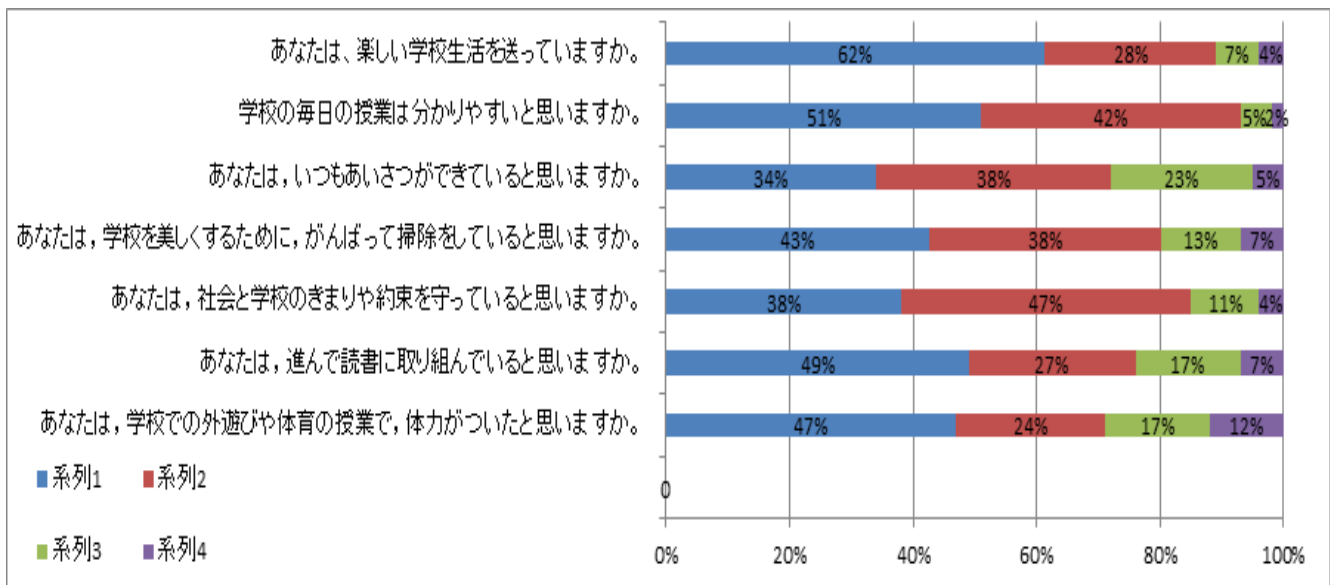
## 令和3（2021）年度「学校評価」アンケート結果について（総括）

学校評価は、子どもたちがよりよい教育を享受できるよう、その教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善と発展を目指すための取組である。今年度の学校評価については、前年度までと同様の内容で実施した。昨年度までの結果と比較・検討するためにも同じ項目であることは有効であり、また、学校教育目標である「確かな学力」「豊かな人間性」「たくましい心身」が達成されたかどうかを検証する材料としても適切であると判断したためである。

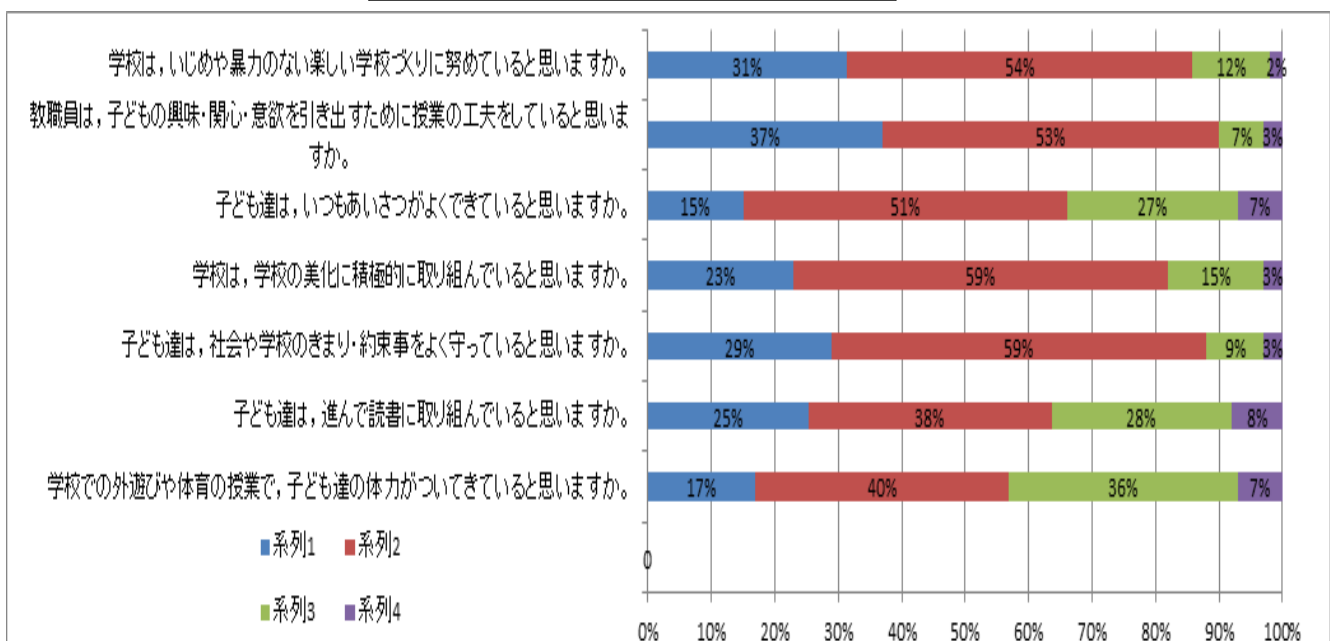
各項目とも、肯定的な回答(系列1，2)をしている児童の割合は、昨年度と比較して肯定的な評価の割合が増加しているが、課題がある項目も個々に見られる。保護者は、昨年度同様、全家庭にアンケートを配り回答いただいた。その結果肯定的な回答は昨年度と比較して増加傾向にある。また、教職員の肯定的な評価の割合も、昨年度より増加傾向にある。

分析・検討した結果を教職員に周知するとともに、学校だより等で保護者に知らせ、今後のよりよい学校づくりや、教職員の指導力向上に生かしていきたい。

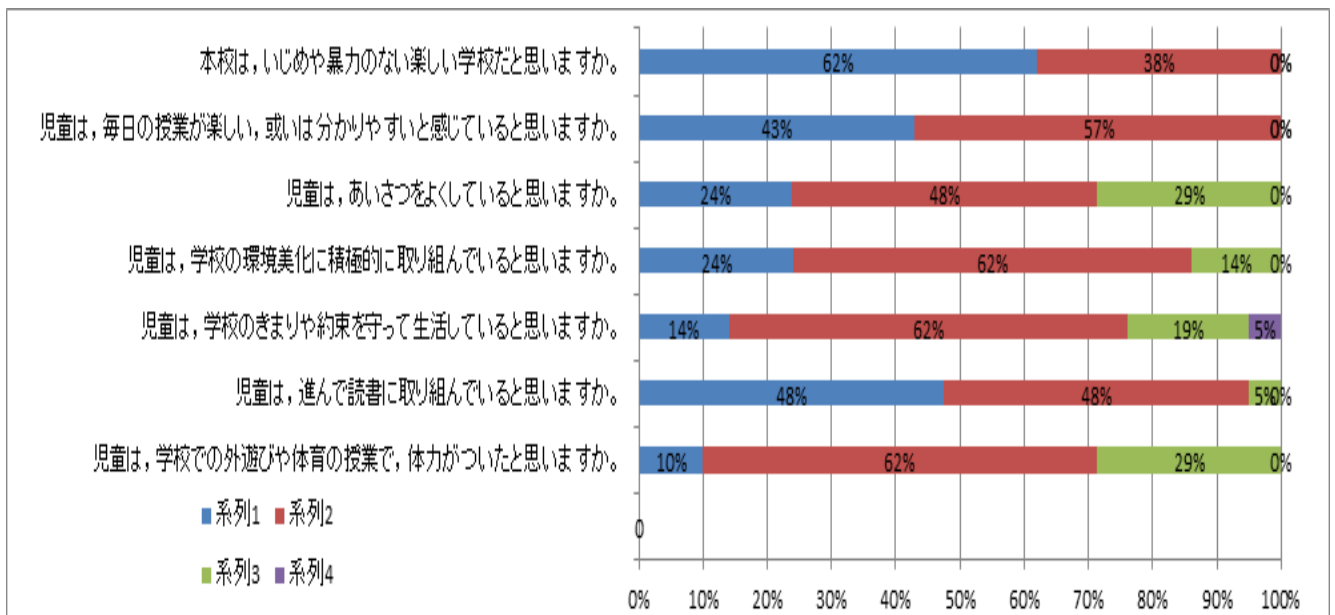
### 令和3（2021）年度児童アンケート集計



### 令和3（2021）年度保護者アンケート集計



令和3（2021）年度教職員アンケート集計



アンケートは、児童用、保護者用、教職員用、いずれも4件法で実施  
 系列1……そう思う                      系列2……ややそう思う  
 系列3……あまりそう思わない      系列4……そう思わない

【設問1】 「いじめや暴力のない楽しい学級・学校づくり」について

昨年度と比較すると、肯定的な回答は児童、保護者、教職員、全て増加している。

児童の肯定的な回答は、2019年度66%、2020年度87%に対し今年度90%と増加傾向にある。否定的な回答も、2019年度34%、2020年度13%に対し今年度10%と、肯定的な回答が多数を占めている。保護者の集計でも、肯定的評価は、2019年度72%、2020年度81%に対し今年度85%と増加している。教職員に関しては、2019年度60%であったが、2020年度は92%、今年度は100%になっている。

学級や学校は、児童にとって安全・安心できる場であり、また、楽しく過ごせる場でなければならない。コロナ禍の中、児童や保護者教職員のつながりがともすれば希薄になる中、学校としてできることを模索し一人一人の不安な気持ちに真摯に寄り添ってきた。また、児童全員が楽しく生き生きとした学校生活を送れるよう、一人一人の児童の人権に配慮し、教員と児童、児童間で信頼関係に基づく好ましい人間関係が成立するように努めることが肝要であると考え、保護者と連携協力し、研修を積み重ねてきた。今後も、授業の充実、人権教育、道徳教育や生徒指導の日々の積み重ねを意識し、児童の内面に迫る指導を行い、また集団に対する指導もきめ細かく行うことが、児童が明るい気持ちで登校し、安心して学習に取り組み、笑顔いっぱいに学校生活が過ごせることとなるであろう。「日々の授業・人権・道徳・生徒指導」を重視しながら児童の豊かな心を育てていけるよう、教職員は日々研鑽しなければならない。

【設問2】 「授業のわかりやすさ」について

児童の肯定的な回答は、昨年度91%に対し今年度93%と増加している。保護者の肯定的な回答は、昨年度91%今年度90%と約9割の保護者から肯定的な回答を得ている。教職員の肯定的な回答は、昨年度96%に対し今年度は100%になっている。

今年度も、児童一人一人の基礎・基本のさらなる定着を目指し、研究主題「主体的に学び、考え、表現する子どもの育成」～「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して～に基づき取組を進めてきた。教職員は、児童一人一人の学習状況に注視し、児童により分かりやすい学習が提示できるよう教材研究に取り組み、熱心に授業の事前準備などに取り組んでいた。さらに、今年度は、タブレット端末の導入に伴い、児童一人一人に対してきめ細かい授業をより多く展開することができ、

児童の考えや思いに寄り添い、学習のつまずきにも的確に指導できる体制が整ってきた。児童も、タブレット端末を活用しながら、他の児童と考えを交流し一緒に学ぶことで、学習への意欲も増し、学ぶことの楽しさが、さらに、増してきたようである。実際、学習アンケートでも、多くの児童が、タブレット端末を活用することで、学習に対する意欲や授業に対する理解度が増したと答えている。今後も、授業を工夫し、より一層児童の学力向上に努め、教職員自身の研鑽を積み重ねていくことが大切である。

### 【設問3】 「あいさつ」について

児童の今年度の生活目標にもあいさつにしっかりと取り組むことが盛り込まれており、日頃から意識して取り組んでいる。また、児童会であいさつ運動に取り組んだり、朝の放送で「あいさつは魔法の力」の歌を流したりして、あいさつの素晴らしさや大切さについて意識できるように日々取り組んでいる。しかし、児童では、「あいさつをよくする」の肯定的評価は、3年間で、77%、71%、72%とほぼ横ばいである。保護者の評価も、60%、65%、66%と、ほぼ横ばいである。また、教職員の評価は、40%、67%、72%になっており5ポイント増加している。全体的には増加傾向といえるが、「あいさつ」に関しては、肯定的な回答は低いと捉えている。

今年度も、感染症予防対策のためにマスクをし、大きな声を出さないようにとも言われていたため、声を出してあいさつを進んでするという意識は少なかったように思われる。また、顔の表情がマスクに隠れているために、相手がどんな気持ちなのか表情も読み取りにくい。しかし、こんな時こそあいさつをして、お互いの心の距離を縮め絆を確かめることが大切であり、そのためにもあいさつがより一層大切であると指導することが大切である。校内ではあいさつを意識して行う児童が増えてきているが、登下校時の「あいさつ」や地域の方への「あいさつ」等に関しては、できていない児童とできない児童がはっきりと分かれており、あいさつを促されて、ようやくあいさつをするのだと気付く児童もいる。

あいさつは、よりよい人間関係を築くための第一歩であり、コミュニケーションづくりの基本である。誰もが当たり前、笑顔で気持ちのよいあいさつができるよう、まず教職員が示していかなければならない。学校、家庭、地域のどの場でもあいさつができるように、各クラスでの指導の強化、家庭との連携の強化、教職員による働きかけや、児童会によるあいさつ運動を続け、より充実したものにしなければならない。あいさつが心を通わせる第一歩であることを認識して取り組んでいきたい。

### 【設問4】 「校内の美化」について

校内美化である「そうじ」の設問に対しては、児童の肯定的な回答は、昨年度87%に対し今年度81%と6ポイント減少している。保護者の肯定的な回答は、昨年度84%今年度82%と2ポイント減少している。教職員の肯定的な回答は、昨年度75%に対し今年度は86%と、11ポイントの増加で評価は上がっている。

児童は、忍海小学校の学び舎に愛着をもって学校の美化に励んでいる。今年度も、昨年度に引き続き、感染症予防対策のため、掃除の時間も短縮し、以前と同様の内容や体制で掃除をすることができなくなっている。そのため、従来なら一生懸命取り組んだ成果が実感できることで、さらに、掃除への意欲へとつながっていたことが、失われてる場面も否めない。しかし、限られた中でも、気持ちを込めて熱心に取り組んでいる児童の姿も見られる。今後も、感染症予防対策を行い、児童の安全を考えながら、児童の校内美化への意識を高め美しい学校づくりを目指していきたい。

### 【設問5】 「きまりや約束を守る規範意識」について

きまりを守る規範意識に関して、児童の肯定的評価は、昨年度84%に対し今年度は85%と大きな変化は見られない。保護者の肯定的評価は昨年度の81%から今年度は88%と7ポイント増加している。また、教職員の肯定的評価は、昨年度の92%から今年度は76%と16ポイント減少している。児童や保護者の肯定的評価は、昨年度とほぼ同じか増加しているにもかかわらず、教職員の肯定的評価は、減少している。教職員は、昨年度はしっかりときまりや約束を守っていると感じていたが、今年度は規範意識が低くなっていると感じていることの要因を考えていく必要がある。

学校生活において「廊下は右側を静かに歩く」「チャイムを守り行動する」「忘れ物をしない」「交通ルールを守る」等、児童にとって守るべき項目は多岐に渡るが、これらのことを日々意識させ、

実践させていくことが、規範意識を高めることの基礎・基本となる。また、今年度より1人1台タブレット端末を使用するようになった。その使い方、使用時間、モラルなど守らなければならないことがある。このことを教職員もしっかりと認識し、児童の心にどの場面でも高い規範意識が育つよう、そして学校生活のみならず家庭・地域での生活においても実践できるよう、今後も家庭と連携しながら心の育成に努めなければならない。

さらに、みんなが生活しやすいように、きまりや約束を守ることの大切さを、教職員は常に意識し、日々児童に伝えていく必要がある。他律的ではなく自立的な規範意識を育てていくことが大切である。

## 【設問6】 「自ら進んでする読書」について

読書を楽しむ心の滋養も本校の重点課題の一つである。児童の肯定的な回答は、76%で昨年度よりも5ポイント増加している。また、保護者の肯定的な回答は63%で、昨年度より1ポイント減少している。一方、教職員の肯定的な回答は、昨年度と同じで96%である。

校内においては、朝の読書や読書の時間等でも熱心に読む姿が見られ、数多くの児童が読書に親しんでおり、児童の様子を見ても読書は好きである。読書カードも充実させ、読書の達成状況が、児童にも分かり意欲も増すような手立ても行っている。また、図書館便り等を使って、読書時間を家庭でも確保する工夫を発信も行っている。しかし、今年度も、感染症予防対策のために、休み時間の図書室の利用ができなかったり、貸し出した図書の本を家庭に持ち帰ることができなかったりと、例年のように家庭での読書時間が増加しないことが要因の一つと考えられる。

今後は、学校だけでなく、タブレット端末を使って電子図書の活用等、家庭でも様々な形で読書に親しめる工夫を考え、読書の有効性などを発信し読書を推進していきたい。さらに、図書委員会による啓発活動をさらに充実させ、より読書に親しむことのできる児童の育成に努めたい。また、学習活動においても図書の資料の活用を進め、多くの種類の本に触れることで読書の楽しさを味わわせていきたい。

## 【設問7】 「遊びや授業を通じての体力強化」について

体力がついたと肯定的に答えた児童は、昨年度は83%、今年度は71%で12ポイント減少している。また、保護者の肯定的な回答は、昨年度65%、今年度57%で8ポイント減少している。教職員の肯定的な回答は、昨年度76%、今年度72%で昨年より4ポイント減少している。児童、保護者、教職員ともに減少している唯一の項目である。

感染症予防対策のために、体育の学習等も様々な制限がかかり、水泳学習や持久走なども実施することができなかった。そして、長期にわたって県教育委員会が薦めている「外遊び、みんなでチャレンジ!」の取組も、十分に実施することができなかった。このことから、例年通りの授業や体力作りができていないと考えられる面は多い。さらに、多くの児童が休み時間に元気に遊んでいるが、より多くの児童が体を動かせるような取組や工夫に関しても展開することはできなかった。普段の生活でもマスクをして身体的距離をとりながら過ごす中で、思いっきり体を動かして遊ぶことができないことは、児童のストレスにもつながっているのではないかと危惧している。

今後は、感染症予防対策をとり、児童の安全を優先しながらも、体育の授業研究を重ね、より充実した指導を図るとともに、休み時間にはより多くの児童が体を動かせるような取組も計画していかなければならない。しかし、感染拡大に伴い、制限がますます厳しくなっている現状では、児童の安全を最大限に優先しなくてはならず、遊びや授業を通じての体力強化の取組を実施しにくいのが実情である。

今年度の学校評価アンケート結果は、総じて肯定的な評価が増加していると言える。しかし、感染症予防対策の影響が出ているアンケート項目も、はっきりしてきた。このアンケートの結果を真摯に受け止め、教職員一同で共有し、今後の学校運営にいかしていきたい。そして、本校児童の健全な育成に向け、常に向上心をもって取組を進めていきたい。